

シルバー やまがた

第117号 平成27年1月1日発行 (公社)山形市シルバー人材センター広報部会

正会員数 931名 賛助会員 46個人・51団体(12月末現在)



山形市 初市 (広報部撮影)

—— 内容紹介 ——

P2 新年のご挨拶 (山形市長)

新年を迎えて (理事長)

P3 ブロック研修会を開催

役員視察研修を実施

P4 事業普及啓発活動を実施

地区班班長と理事との意見交換会を開催

P5 わが街自慢

P6 ~ 7 会員のひろば

P8 人あり・技あり・心あり

安全就業推進活動

P9 就業会員を訪ねて

新入会員紹介

P10 事務局だより

ホームページでもご覧いただけます。

山形市シルバー人材センター

検索



新年のご挨拶

名誉会長・山形市長 市川 昭 男

新年、明けましておめでとございます。
 会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

公益社団法人山形市シルバー人材センターにおかれましては、日頃より「自主・自立・共働・共助」という基本理念のもと、会員の皆様の技能や経験を活かした就業活動のほか、各地区での清掃ボランティア活動など多岐にわたる事業を展開され、地域社会の活性化と福祉の増進に大きく貢献いただいております。長瀬理事長をはじめ会員の皆様に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、少子高齢化の急速な進行による人口減少社会を迎え、団塊の世代の相次ぐ定年退職による労働力不足や社会保障費の現役世代の負担増等が大きな課題となっている中、将来にわたって社会の活力を維持していくためには、健康で就業意欲の高い高齢者が地域経済の担い手として活躍できる多様な就業機会を確保していくことが不可欠であります。

このような中、本市では、これま



新年を迎えて

理事長 長瀬 洋 男

明けましておめでとございます。会員の皆様には、輝かしい年を迎えられましたこととお喜び申しあげます。また、昨年中は皆様には格段のご支援、ご協力を頂き、厚くお礼申しあげます。

平成二十五年の山形市の高齢化率は、二十五・六%と四人に一人が六十五歳以上の高齢化社会となっております。戦後生まれのいわゆる団塊世代が六十五歳を迎えたここ数年間で社会全体の高齢化はさらに進むと思われま

戦後の日本は、世界でも類を見ないくらいに速さで高齢化が進んでおります。このような超高齢化社会において地域社会を活性化させ、社会の活力を維持し続ける為には、高齢者が生き生きとして働き続けられる社会を構築していく必要があります。

そのためには、高齢者が永年にならぬように培ってきた知識や経験を、地域で最大限に発揮できるような取り組みを進めていくことが重要となります。

こうした中、消費増税後の景気の

減速が懸念され、まだまだ景気回復を実感できる状況ではありません。一方で雇用情勢についても依然厳しい状況が続いています。

現在、当シルバー人材センターでは、平成二十七年から三十一年度までの五カ年の新たな「中期事業計画」の策定を行っております。高齢者がそれぞれの能力に応じて生きがいを追求しながら働くことができ、様々な課題を解決できる事業の一つと言えます。地域社会に密着した仕事を、会員の皆様に提供し就業することにより、福祉の受け手から社会の担い手として活躍することが期待されています。

「自主・自立、共働・共助」の理念に基づいて会員及び役員が共に協力し、新たな中期事業計画の推進に向けて努力してまいります。

今年一年が皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げます。この挨拶といたします。

ブロック研修会を開催

私たちシルバー世代の誰もが、健康の維持・増進には少なからず関心をお持ちのことではないでしょうか。そんなことから、今年度の「ブロック研修会」では昨年度の健康講話とは違った角度から「健康とウォーキング」と題して、日本で初のクアオルト学研究者で、現在クアオルト研究室代表の小関信行氏から、ドイツ発祥の『気候性地形療法』を取り入れた健康法やウォーキングの手法についてのお話をお願いいたしました。

ドイツでは、緊急時以外自分の都合でいつでも受診できない医療事情にあり、普段から自分の健康に注意し生活することが身につけていること。

そのような事情から、クア（kur:療養）+オルト（ort:地域）=（Kurort:『気候性地形療法』）が活用されたこと。

この『気候性地形療法』が古来から山形に見られる山岳宗教の修行と同じような効果があるとの考察から、上山市にミュンヘン大学認定の多くの気候性地形療法コースを設置し、体力に合わせたコースで多くの参加者がウォーキングを実践していること。等色々なことを映像やデータを用いて分かりやすく話していただいたので、自分に合った健康法やウォーキングの手法を見つけること

総務部長 鈴木 洋一

ができたのではないのでしょうか。特に次のようなことは常に心がけておくことが肝心なようです。

●歩き方の目安

「登りは百六十から年齢を引いた心拍数」と「冷たくさらさら」で二倍の効果

無理をせず、自分の体力に合わせてスピードを調整したり、衣服を調整して、汗を蒸発させて皮膚を「冷たくさらさら」の状態に保つこと。

●舗装道路を歩くより土の道を歩くこと。

●シルバー世代は大きな動きで運動をすること。

上山市の気候性地形療法コースで実際にウォーキングをやってみたいという方は、何時でも歓迎するそうですので、トライしてみたいかがでしょうか。

今年度は十一月二十五日、二十七日、十二月二日の三日間実施し受講者数は延べ四百十三名となりました。お忙しい中、研修会に出席いただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。



役員視察研修を実施

当シルバー人材センターも公益社団法人への移行に伴い、総会や理事会の権限が法制化され、これまで以上にコンプライアンス（法令の遵守）が求められています。

この中で、理事会は、業務執行に係る具体的内容を審議し、執行する機関であり、理事の担う役割は大変重要であります。

先進地のシルバー人材センターの事業を参考として、当シルバー人材センターの事業運営に役立てていただくため、理事の視察研修を実施しておりますが、今年度は、十二月四日・五日の両日、仙台市シルバー人材センターと多賀城市シルバー人材センターを訪問し、役員研修を実施しました。

仙台市SCと多賀城市SCの理事長・事務局長さんから、それぞれのシルバー人材センターの事業概要をご教示いただき、積極的な意見交換を行ってまいりました。

仙台市SCは、会員数が二千四百名を超え、契約金額が九億八千万円を超えるマンモスセンターですが、技能講習会や安全就業への取組みについて、意見交換をしております。

また、多賀城市SCは会員数が四百八十五名ですが、女性会員の割合が約二十七%と高く、軽度生活援助事業等に取り組んでおりました。

介護保険法の改正により、各自治体が検討している「生活支援・介護予防事業」の受け皿としてのシルバー人材センターの取組みについての参考にしてまいりたいと思います。今後とも、役員研修の充実を図り、役員の資質向上と適切な事業運営に取り組んでまいります。皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。



仙台市SCにおいて

事業普及啓発活動を実施

広報部会長 小林 誠

十月の全国一斉シルバー事業普及啓発促進月間において、次の普及啓発活動を実施しました。

会員によるボランティア活動

十月九日（木）、馬見ヶ崎河川敷の馬見ヶ崎橋から愛宕新橋まで清掃活動を行いました。各地区から参加した会員と役員百七十名が両岸に分かれて、散乱したゴミを拾い集め「分ければ資源、まぜればごみ」という収集・回収のルールどおりに分別し処理をしました。

また、各地区の研修会の開催にあわせて公民館や公園の清掃などを行っております。

こうした活動は、事業者の方にも地域の人にも「地域にシルバーあり」ということを広くお知らせし、地道ながら就業機会を増やし会員を増やしていく礎になるものと思います。

役員による街頭啓発活動など

十月二十八日（火）、イオン山形南店・北店恒例の「火曜日」にあわせて理事長はじめ役員、専

門部会員二十九名が十時から十一時まで、PRチラシを配布しながらセンター事業の利用と会員の入会勧誘を行いました。

その日は小雨模様の天候でしたが、お客様の変わらぬ来店があり、準備した千二百枚のチラシを配布し普及啓発ができました。

このほか、市役所市政記者クラブへ啓発活動内容等についての情報提供、十一月二十日（木）から二十二日（土）まで山形テルサで開催された互助会主催の文化祭、女性部会による創作品頒布会場にPRチラシと活動風景のパネルを展示して、事業の紹介と入会の動機づけ・勧誘を行いました。文化祭、頒布会は三百名の入場者でにぎわい、PRができました。



地区班班長と理事との意見交換会を開催

総務部会長 鈴木 洋一

リートーキングの形式で行われました。

（各班長さんからの主な質疑等）

◎班長を交代するに当たりなかなか候補者が見当たらず人選に難航することがある。このような場合は事務局に人選をお願いできないものか？

◎大勢の会員を受け持つと範囲が広くなり連絡調整に非常に難儀している。世話役はおおよそどの程度の会員を受け持つことになっているのか？

◎地区研修会の参加者が少なくて困っているが何かよい方策はあるか？

◎冬の除雪作業での除雪範囲等の諸問題について

地区班及び職群班は地区の課題や職群の課題をシルバー事業に反映させるための組織として大きな役割を担っており、それらの活動の内容等について各理事が把握し、指導・助言を行っていくことは、公益社団法人としてのセンター運営の基本である「自主・自立」の理念の具現化にとって重要なことでもあります。

このため、平成二十四年度第七回通常理事会（平成二十四年十月四日）において、地区班・職群班に担当理事を設け理事の責任体制を確立するとともに、経営体としてのシルバー人材センターの組織強化を図ることとしたものであります。

今年度の地区班班長と理事との意見交換会は、十月二日にホテルメトロポリタン山形で開催されました。

理事長から、「地区班班長さんには日頃からシルバー人材センターに対して特段のご支援とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。」との謝辞があり、続いて自己紹介、各部会が抱えている課題の説明、そして各班長さんが抱えている課題についてフ

この他にも、いろいろなことで意見交換がありました。私たちが理事が想像している以上に各班長さんのご苦労を垣間見たと思います。これからは、お互いに協力し、知恵を出し合いながらいろいろな課題に向き合い解決していききたいものです。

鈴川第三地区

小笠原 重義

鈴川三地区は山形・山寺線稜道十九号線沿いの印役・鈴川・花楸・五十鈴の広いエリアです。

私たちが奉仕活動を行っている「印鑰神明宮」を紹介したいと思いいんを執ったところ

す。印鑰神明宮は、「鈴川のおしんめ様」と知られ、ご祭神は天照大神と豊受大神であるが、

ご神体は奈良時代の武人で蝦夷を討って陸奥鎮守府将軍となった天野東人がもたらした銀鑰（銀の鍵）であるといひます。その「ぎんやく」が、なまって「いんやく」となり印役の地名となったという。

境内地には、ケヤキ・スギなど樹齢三百年以上のもので多くあり、街の中心部には地場産業として、みそ・こうじなど醸造業が盛んで現在も続けられております。



また奉仕活動として氏子総代の皆さんが落ち葉の片付けを交代で雪が降るまで行っており

す。新緑の春、緑陰の夏、紅葉の秋、冬天空に立つ老大木、四季それぞれの森があることはありがたいことである。

地域紹介

わが街自慢

パートII



東沢地区

江口 矩雄

山形の夏のシンボル、花笠祭り。その先達となる蔵王権現の山車は、当地区の下宝沢の蔵王権現をかたどったもので、お堂では毎年、祭りの直前に関係者が集って、祭りの安全祈願が執り行われます。江戸時代、宝沢地区は、蔵王参拝の起点として栄えました。加茂雷神社には参拝者が列をなしている大きな絵馬が飾られています。蔵王の独鈷沼（ドツコン水大沼）も上宝沢地内にあり、大正時代に、宝沢青年団の手で虹鱒の養殖が試みられたほどの身近な場所でした。麗峰雁戸山も地域の大切なちにとって

は、毎週のように登る

ほどの身近な山であったとの事です。今でも東沢小学校の六年生は毎年雁戸登山をするのが定番となっています。又、夏の始めに唐松観音のすぐそばの清流で行われる鱒つかみどり大会は、東沢の子ども達が最も楽しみにしている行事の一つです。最近、若い世帯が、当地区に定住するケースが目立つのもこうした、自然いっぱいの環境にあるように思われます。



シルバーの就業で学んだこと



第一地区
菅原 清一

私は平成十八年十月から、総合福祉施設の管理に就業させていただきましたが、そこで多くの経験をさせていただき、現在もその経験を生かして、認知症高齢者の居る介護施設で介護助手として働いております。その施設は年齢制限の無い所ですので、体力の続く限り働こうと思っ

ております。

高齢者の認知症の程度は様々ですが、その方の話を聞くことから始まります。同じ内容の話ですが何度でも聞いてやるのが大切のようです。このことは前の施設で経験したことで、言葉では知っておりましたが実際に様々な認知症の方が居られるということは、そこで初めて知りました。

現在、多くの会員の皆さんが福祉施設で働いていることと思います

ひろば

つながり



家からの眺め



第八地区
植松 祇子

が、卒業しても、その経験を生かせる所が多くあるということを知っていただき、挑戦してみたいかがですか。

ときです。雲が、西から東へ流れるということを初めて知りました。杉の木のでっぺんに、青さが時々とまります。するとカラスが、ここは自分たちの縄張りだ、とばかりに大騒ぎします。普段は絶対にとまらない細い枝の先に、意地で頑張つてとまっているのを見るのも、面白いものです。

秋の紅葉、冬の雪景色と飽きることはありません。おかげさまで、長生きしそうな気がします。

私は、自分の住まいからの眺めが、とても気に入っています。市営アパートの四階ですが、入居が決まったときは、足の悪い私にとっていかなものかと思いましたが、入居したら眺めの良さに少々驚きました。遠くの山々や、神社の木々など、なかなかのものです。まっすぐ南には、芸工大が見えます。

夏、汗だくで仕事から帰って、シャワーを浴び、青空に浮かぶ白い雲をボーっと眺めているのは、至福のひ



多員の

健康・趣味

新たな人生 スタート



第九地区
武田 年司

この度、皆様の仲間入りをさせて
頂く事になりました。

四十五年間勤務した会社を、退社
致しました。これも家族はもちろん
のこと、会社関係等、様々な方の支
えのおかげと、感謝しております。

在職中、階段の昇り降りが辛くな
る時があり、体力の衰えを痛感した

次第です。

退職してからは、毎朝、散歩に行
き、自然の移り変わりを目にし、脚
力をつけ、家や庭先の手入れ等、マ
イペースでやっている昨今です。

以前からやってみたかったゴルフ
にも、会社の同僚から誘われ、ゴル
フ道具一式譲り受けました。コース
で、なんとかついて行けるように、
本やDVDで学習し、また、ゴル
フ仲間のアドバイスを受け練習した
り、ウォーキングと共に力を入れて
いるところです。

恩師からのアドバイスである、静
と動の趣味を意識し、常に目標を持
ち、有意義な日々を送りたいと思っ
ますので、よろしくお願いいたしま
す。



城西家族会



第十地区
下山 邦彦

子どものスポーツ少年団活動で出
会った五家族の集まりが、城西家
族会のはじまりです。子ども中心
に、海・キャンプ・食事会・旅行な
ど、楽しく過ごしてきました。子ど

もたちもそれぞれの道に進むよう
なり、就職・大学・結婚などで、だ
んだん夫婦での行事になりました。
たまには子ども・孫と一緒に旅行な
どもあり、昔とはかなり変わってし
まいましたが、今年で会が出来て
二十五年となり、長い間、皆様の協
力・思いやりのお陰とっております。

先日、山形新聞の「最上川さくら
回廊」植樹祭募集記事に、家族夫婦

の記念にと思い申込みしたところ、
幸運にも選ばれ、十月二十五日吉原
地区の村山犬川左岸で、さくらの植
樹会に参加してまいりました。この
時に植えたさくらは家族会の記念で
あり、子や孫の代まで受け継がれる
ことと思います。植えた桜が大きく
成長することを楽しみにしたいと思います。



シルバーに

人あり 技あり 心あり

災害ボランティアに参加して



第三地区 佐藤 勇

昨年の七月九日から十日にかけての台風八号の影響で、置賜地方を中心に大雨となりました。河川の氾濫によって土砂が住宅地まで流れ込み、床上浸水などの大きな被害を受けた南陽市では、ボランティアを募集していることを新聞記事で知り、七月十三、十四日と十六日の三日間活動に参加しました。

ボランティア活動に格別の理由はありませんが、これまでいろいろなお陰で生きてきたという感謝と自分も人の役に立てればという思いを實行しようという思いをいたしました。そのときはシルバリの仕事が一時休業で、農家のサクランボ収穫の手伝いをやっていたことも参加しやすい状況にあ



りました。

当日、赤湯市民体育館に設けられたボランティアセンターには、全国各地から若い人も中年の人も、ボランティア団体など多くの人が支援にきておりました。受付で係員の連絡・指示に従い、一日目は五、六人、二、三日目は十五、六人のグループで吉野川沿いの被災住宅に行きました。

床上浸水した住宅の床板をはがして、床下に流れ込んだ泥土をかき出し、土のうに入れて運び出す。庭や家のまわりに流れ込んだ泥土も同じように撤去するという作業をくり返して行いました。

この活動を体験して、人を思いやること、人のためになること、お互い助け合って明るく生きていきたいという思いを強くしました。これからも会員のみなさんやサークルの仲間と楽しく、長くお付き合いをさせていただきたいと思っています。

(取材・広報部)

安全就業推進活動

安全就業推進委員長 矢代 鉄也

《山形県安全就業推進大会》

十月八日、二十六年度の安全就業推進大会が山形ビッグウイングで開催されました。長瀬副会長の開会挨拶から始まり、堀江会長の挨拶、来賓の祝辞等があり、安全就業優良 S C のセンター賞に米沢 S C と遊佐 S C が、無事故特別賞に朝日、大石田町 S C が表彰されました。安全標語入選作品の発表が行われ当会員の黒木和子さんと渡辺志朗さんが佳作賞で表彰されました。引き続き「事故ゼロ」を目指し就業における安全の徹底を図る事を、参加者全員で宣言をしました。



第二部は山形財務事務所専門調査官の木村氏より「オレオレ・買

え買え・はもう古い。身近に迫る金融犯罪とは」について実例等で分かり易く話をして下さいました。アトラクションは鶴岡 S C の「しるばあー一座」による迫力ある歌・剣詩舞が演じられました。

《安全就業パトロールの実施》

安全就業推進委員会では、秋に行う、抜き打ち不定期パトロールを十一月に実施しました。就業している会員の皆さんには連絡せず、抜き打ちで三日間・九カ所・屋内作業を中心にパトロールしました。こうした活動が安全な作業への啓発に役立つ事を期待したいと思います。「安全就業の主役は、会員の皆さん、一人、ひとりです」





就業会員を訪ねて

細谷孝司(筆耕)

「筆耕」日常にはあまり馴染みのないこの言葉は、辞書によると①写字、清書などをして報酬を得ること。②文筆によつて生計を立てることとあります。今回は、前者にいう職域に携わる筆耕班のリーダー細谷孝司さん宅を訪問、筆で耕す周辺についてお話をうかがいました。

「我々の仕事は、手書きによる文字の表記」と細谷さんは言います。そしてその基本は文字通り、手習い・お習字から始まる腕を上げ、毛筆を駆使し、形象性、装飾性を追求すると、いわゆる芸術書道の域に入ることになり、明解な実務書とは全くジャンルが異なつてく

る。文字の表記、すなわち「記録性」には正しく書くことを目的とした戸籍

法規則(人名漢字別表)、内閣告示(常用漢字表)、文部科学省告示(学習指導要領)等の国字政策の洗礼を受け

る。このような制約を理解し、「字体」についても、標準体(教科書体)、許容体、旧字体等を字ばなければならない。なまじの芸術性や個性などの自己主張は払拭され、依頼者も(こ)までは要求しないのが普通である。

そうは言いながら、筆文字本来の美しさ、余白のバランス、レイアウト等の様式美を失つてはならない「いはらの道」を我々は歩むことになる。優雅な毛筆三昧の境地などはあまり縁がない。

苦笑しながら細谷さんは続ける。各自の学習・作業環境が孤立しやすいこと、見るに耐える表現技法を習得すること等から、月二回、研修会を開催し、技量・知識の共有、親睦を図る。さらに筆耕実務審査会という登龍門があり、人材登用の適性・公平性を期している。

しっかりPRでしめくり「心労とストレスから解放されるのは般若湯かな……。」と目を細める。緊張の中に、時の経過を忘れた取材でした。ご協力に感謝致します。

(取材・広報部)



新入会員紹介

(10月1日～12月31日まで)

東沢地区	飯塚・樫沢地区	千歳地区		鈴川三地区		鈴川二地区	第九地区	西地区	第五地区	第四地区	第二地区
大友庄治	安孫子司郎	遠藤洋一	佐藤芳子	長谷川勇	高橋太通夫	田代清	武田年司	布施勲	高内博士	名和陽子	村田良年
		西部地区									
	横川政子	安達孝義	丹野守夫	鈴木裕美子	榎本由美子	黒沢光男	近美津子	蔵王地区	南沼原地区	南山形・本沢地区	富澤ミヨ
								佐藤健治	佐藤健悦	由利健悦	金井地区
											井上隆
											佐々木弥生
											滝山二地区
											国井俊子
											滝山一地区
											結城正夫
											安喰功

事務局だより

新事務局職員紹介

ジュニアなごへお願ひします。



臨時職員 土屋千恵子
子育て支援
コーディネーター

配分金Ⅱ所得税法上の取扱い

シルバー人材センターの仕事をし得た『配分金』は所得税法上では「雑所得」として取り扱われ、課税対象者になると思われる会員の各位において最寄りの税務署に申告が必要となります。

センターでは、平成二十六年分の配分金の合計額を証明する『配分金支払証明書』を発行しますので、必要な方は一月二十九日までに事務所へご連絡下さい。二月三日以降に事務所窓口で交付いたします。

なお、『配分金』については、六十五万円の控除が認められており、配分金以外の収入がない場合には、基礎控除三十八万円を含めて百三万円まで所得税が課税されないこととなります。

また、公的年金を受給している場合は配分金とは別に所得控除が受けられます。公的年金控除額は下記のとおりです。

山形市シルバー人材センター

山形市双葉町一丁目二番二号
電話(〇三三)六四七六六四七

URL: <http://www.sjc.ne.jp/yamagatahi/>
E-mail: yamagatahi@sjc.ne.jp

なお、配分金収入、給与収入、公的年金収入以外の収入がある場合の所得控除及びその他の控除については、税務署にお尋ねください。

受給者の区分	その年中の公的年金等の収入金額 (A)	公的年金等控除額
年齢65歳以上の人 (昭和25年1月1日以前に生まれた人)	330万円以下	120万円
	330万円超410万円以下	(A)×25%+37万5,000円
	410万円超770万円以下	(A)×15%+78万5,000円
年齢65歳未満の人 (昭和25年1月2日以後に生まれた人)	770万円超	(A)×5%+155万5,000円
	130万円以下	70万円
	130万円超410万円以下	(A)×25%+37万5,000円
	410万円超770万円以下	(A)×15%+78万5,000円
	770万円超	(A)×5%+155万5,000円

お知らせとお願ひ

配分金支払日

- 一月二十日(火)
- 二月二十日(金)
- 三月二十日(金)



入会説明会(午後一時三十分)

会員の皆さんからも入会の勧誘をお願いいたします。

- 一月八日(木) 十五日(木)
- 二十二日(木)
- 二月五日(木) 十二日(木)
- 十九日(木)
- 三月五日(木) 十二日(木)
- 十九日(木)

就業相談日(午後一時三十分)

- 就業に関しての相談です
- 一月八日(木)
- 二月十二日(木)
- 三月十二日(木)

作業所移転のお知らせ

現在の双月作業所の老朽化に伴い、あかねヶ丘にある元消防署西出張所へ作業所が移転します。十二月から順次引っ越しを行い、新作業所での本格的な作業開始は二月以降となります。新作業所は建物面積が限られるため、理容室は閉所し、筆耕班の錬成会や愛好会は別会場で活動することとなります。詳しくは事務局までお問い合わせください。

計報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます
長岡 正廣さん(六十六歳)
(滝山二地区)

あとがき

本誌を発行する広報部に所属して二年になるうとして。一号につき四回の編集会議。年間、合計十六回の集まりかあ。ずいぶん多い回数だなあ……年度初めこんなことを感じていたのだが、今、新年号を手掛けている。「はやいなあ。」時間がまるで台風のような勢いで流れている感じがする。表紙を飾る四季折々の風景写真も、時の流れの速さを感じさせるのに一役買っている。

昨年十月、馬見ヶ崎川周辺の清掃奉仕終了後、芋煮会会場に向かう会員のたちと一緒に橋を渡ろうとしたところ、「いいなあ」という声があった。声につられて目をやると橋の下に賑やかな集団をみた。芋煮会に集まった高校生の集団のようだ。しばし立ち止まって見入った。そういえば前もこんな風景に出会ったっけ……あれから一年たったんだあ。はやいなあ。

毎年この風景を目にすることが出来たということは、当会とかかわり合いがあったからこそ。そして、健康でいられたからこそ出会えた風景なのだとも思った。

『光陰 矢の如し』事あるごとに今この言葉を深くかみしめている。